

～目と脳のメカニズムをおさえて安全運転～ 安全確認はしっかりと顔を向けて

実験シート



車の運転をしているとき、「あれ、なんで歩行者が来たのを見落としてしまったんだろう」：などと、ヒヤッとしたことはありませんか。私たちの脳は常に周囲の情報を処理し理解しようとしませんが、すべての情報を正確に処理できないために推測や補完を行います。そのため、時には脳が錯覚を起こすことがあります。

では実験をしてみましょう（左上絵）。①まず左目をつぶります②右目で左側のフォークリフトだけを見ます③そのまま絵を離したり近づけたりします。すると右側の人の絵が視界から消える時があります。

これは誰にでもある「マリオット盲点」というもので、目の網膜にある視神経乳頭にあたる部分で、視細胞がないため見えません。

両目を同時に使用している時は、左右の眼がそれぞれの盲点を補い合っていますが、片目で見ると脳が見えない部分を前後の画像から補正しているため「実際は物があるのに、見えていない」という現象があるのです。

錯覚を最小限にするために「両目で見る」つまり「顔を確認する物の方向に向けて」歩行者や自転車・車の見落としを防いでいきましょう。

- ・一時停止からの発進時の左右の確認、左折時の巻き込み防止、右折時の右歩道横断者の確認。
- ・早めに減速をして、しっかりと顔を向けて確認。

運転業務以外の安全確認はどうでしょうか。あわせて確認してみましょう。